

果試 ニュース

第12号 平成12年3月



草生栽培用の草種比較試験

11年産の温州みかんや伊予柑は、生育期の気象に恵まれなかったことから、品質が悪く、販売価格が低迷して、誠に残念な結果になりましたが、今年こそは、愛媛みかんの底力を発揮し、高品質果実を生産して有利な販売を展開したいものです。

愛媛果試としても、農家の安定経営に貢献すべく、幅広い試験研究を推進しており、逐次、その業績を皆様にお示しすることにしておりますが、今回は、柑橘の節水灌水技術、モモ、及びキウイフルーツの高品質安定生産を掲載することとしました。節水灌水は平成6年にあったような早魃年に少ない水を有効利用して干害軽減と高品質果実生産を図ろうとするものであり、モモはわい性台を使うと、大玉高糖果生産ができるが、樹勢低下の問題があり、これをクリアしようとするものであり、キウイフルーツは効果的な環状剥皮の方法を具体的に示したものです。

また、表紙の写真には柑橘園の草生栽培を載せていますが、近年、国民の健康志向の高まりから、農薬や化学肥料の使用量を少なくしていくことが求められています。このため、12年度から新規課題として、「環境に優しい土壌管理技術開発試験」を実施することとし、柑橘園に最も適した草種を選抜し、草生栽培を前提とした施肥体系を確立する予定です。また、肥効調節型肥料により、肥料の吸収効率を高め、化学肥料の施用量を削減する試験も行なうこととしており、時代を先取りした試験研究に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

場長 別府英治